

2019年 桜を訪ねて



和歌山	4月 4日	山桜の群生地、和歌山城、紀三井寺	p 2
京都	4月 5日	背割堤、醍醐寺	p 3, 4
兵庫(播磨)	4月 7日	赤穂御崎、姫路城	p 5, 6
兵庫(須磨)	4月 8日	須磨寺、須磨浦、妙法寺川	p 7
滋賀	4月 9日	海津大崎、彦根城	p 8, 9
兵庫(明石)	4月12日	鹿島市の池、明石公園	p 10, 11
兵庫	4月13日	神戸総合運動公園	p 12
奈良	4月17日	吉野山、宇陀(又兵衛桜・佛隆寺・大野寺)	p 13, 14, 15
兵庫	4月	奥須磨公園	p 16

和歌山 山桜群生 和歌山城・紀三井寺

2019年4月4日(木) 晴れ



和歌山のとある山桜の群生地

山と池のある山桜の群生した風景がとても美しく、大自然が作り出した造形美である。

和歌山城

徳川御三家の一つの城。和歌山のシンボリック存在で城外からも天守が臨める。

紀三井寺

和歌山駅から二駅と近い。高台にあるので和歌浦などが眺められる。



背割堤

淀川中州にある1.4kmの堤に植えられた桜が美しく、緑の土手の両側に垂れる満開の桜は天下一品である。

早朝8時ごろだったので人影も少なくゆっくり味わう事ができた。堤の両脇にサイクリングロードもあり、整備状況もよく早朝の散策は最高。

淡いピンクの桜と堤の緑のコントラストが映える。桜に包まれて一日のんびりできればいいな、と思えるところだ。



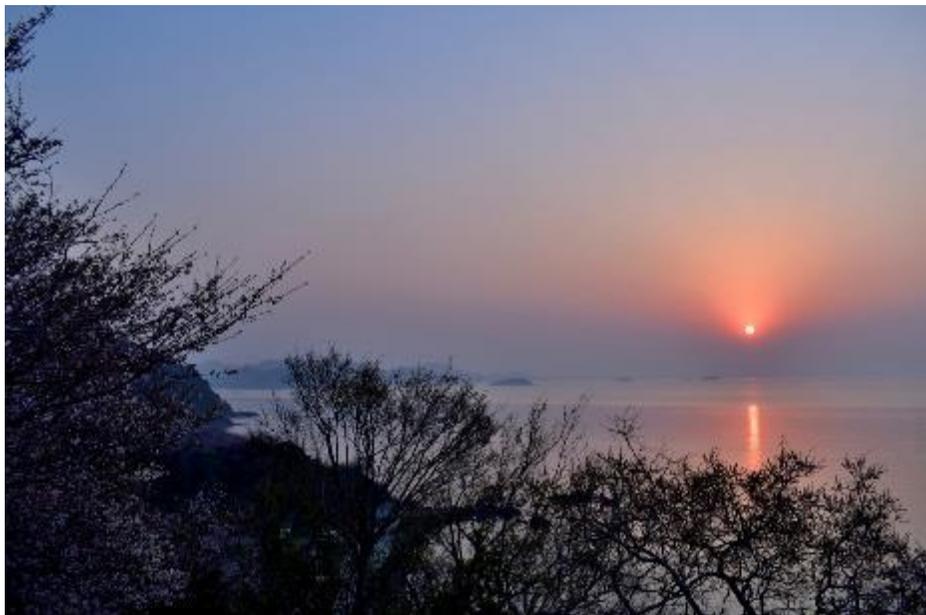


醍醐寺の桜

豊臣秀吉が晩年「醍醐の花見」を行ったことでも有名な寺である。

樹齢の古い大きなしだれ桜が主であり、その荘厳さに驚かされる。秀吉の時代ではどうだったか？ 拝観区画(有料)は三宝院、霊宝館、伽藍の三つであるが、桜の美しさは霊宝館と三宝院のエリア。老木は花を付けにくくなっており、かつての優美さを保てない木もある。

左写真は非有料場所から。知られざる醍醐寺一の撮影スポットだと思う。



赤穂御崎(東御崎)公園

瀬戸の夜明けが見たくて5時前に公園に着いた。朝靄が濃くて真っ赤な大きな太陽だった。海面には真っ赤な一筋の光、一面靄に包まれた赤白に幻想の世界。光は更に瀬戸の海に浮かぶ島々を浮かび上げらせ行き交う船に目覚めの時を迎える。海岸線を走ると「丸山ビーチ」。海釣りを楽しむテント泊の人影と赤穂の岬。





天下の名城「姫路城(白鷺城)」

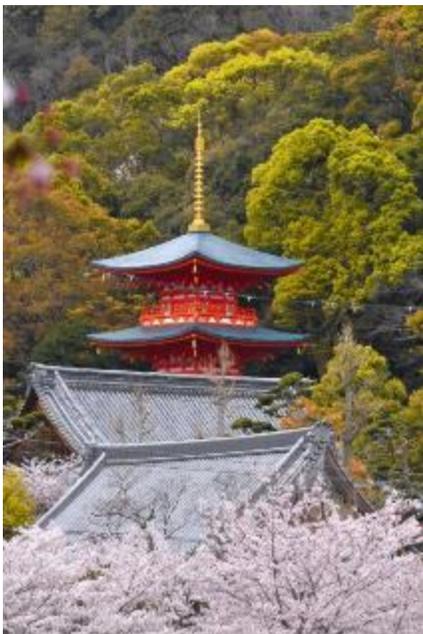
「昭和の改修」後のお城を見て育ったので、「平成の大改修」では真っ白な城でなじみがない。

青春のひとつきを思い出しながら、姫山公園、男山、動物園など外周から城を眺めた。懐かしい。

この城は外堀や外壁を回って、見る角度からお城の変化を楽しむのも一興だ。

左城写真はほんの1m四方の撮影スポット。下は男山から西・北面の天守の様子。





須磨近郊の桜巡り

- 須磨寺の塔と桜。背景の萌黄色と調和
- 須磨浦公園。海と桜のコラボレーション。
 - ・須磨浦公園山頂から須磨海岸
 - ・須磨浦公園内から海釣り公園
- 須磨妙法寺川公園(下写真)
 - 夕陽を受けて赤く染まる桜もまた格別

須磨は一ノ谷の源平合戦の地で、須磨浦公園での「敦盛桜」祭り。桜と海の景色が魅力。





桜100選で有名な海津大崎

奥琵琶湖の湖岸につづく桜並木の絶景の地。岬・岩礁・青い湖水・湖西湖東の山々、それに満開の桜。マキノ駅から海津へ、「海津から大崎までの湖岸」を言うらしいが、「大崎から二本松」の湖岸の桜が美しい。自動車で通り抜けるのはもったいない景色。自転車を借りて思う存分味わうことが出来たのは最高。神秘的と言われる奥琵琶湖に桜を訪ねての小旅行。なんと贅沢で快いものか！





彦根城とマスコットキャラクターの「ヒコニヤン」

琵琶湖を臨む彦根城

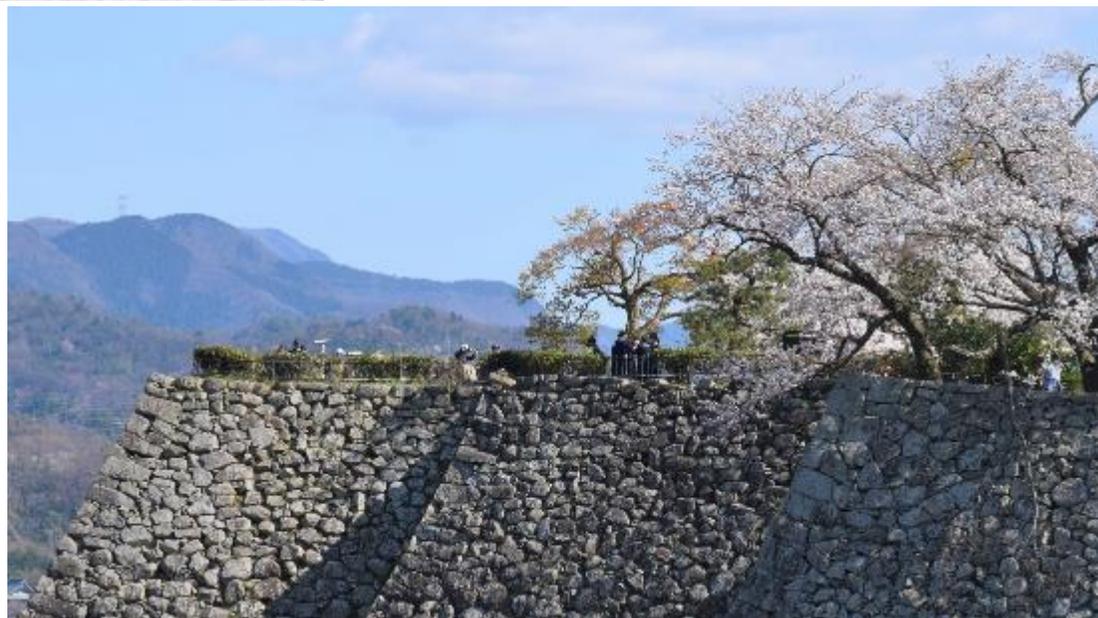
<彦根城の良さ>

- ①天守から桜の雲を経て青い湖水の眺め
- ②高く整然と積み上げられた城壁

彦根城は、井伊直弼を始め井伊家の居城、城裏には、「玄宮園」の広大な贅を尽くした大名庭園。

<琵琶湖周航の歌>

矢の根は深く埋もれて
夏草茂き堀のあと
古城にひとり佇めば
比良も伊吹も夢のごと
これは、彦根城、長浜城、小谷城か
姉川の合戦で浅井が敗れたのを歌ったとすれば小谷城



兵庫 鹿島・市の池公園

2019年4月12日(金) 曇り晴れ



鹿島/市の池公園

播磨アルプス麓の鹿島神社隣の
小さな公園(テントサイトも有り)
こじんまりしておりゆっくり過ごすに
は手頃な大きさである。
JR曾根駅から広々とした田園風景
を眺めながら歩くのも楽しい。
また、播磨アルプスをハイキングし
ながら見下ろすのもよし。

兵庫 明石城と明石公園

2019年4月12日(金) 曇り晴れ



明石城跡と広い公園

二つの櫓の対称性の美しい城跡。天守は築かれず広い敷地を囲う城壁の明石城跡。淡路島・播磨灘を望む風光明媚な所。池を中心に、周囲は桜並木に囲まれ、更に外周は萌黄色の森に包まれる広大な公園。桜100選の美しい公園だ。



散り初めの公園の桜

公園内の「桜の道」。散り初めであったが、満開時の桜のトンネルは圧巻だろう。「コスモスの丘」は菜の花畑。その香に包まれ、丘陵地帯から淡路島を臨む。芽吹き時期、桜や菜の花に春を感じつつ過ごす時もまた一興かと。



奈良 吉野山

2019年4月17日(水) 曇り



<上千本の勢いのある山桜>



<奥千本の山桜の墓場>

吉野山桜 上千本(奥千本)

例年に比べ遅く、やっと吉野桜の上千本が満開を迎えた。今年は早朝での桜見物、生憎の曇り空だが天下の吉野山はやはり美しい。中千本辺りは葉桜、緑や赤の葉も彩りがあっていいものだ。しかし、吉野山は、赤・白・ピンクと様々の彩りに満ちた上千本の桜が最も美しい。人影少ない静けさ、場所を変えて動き回る自由さ、そして空気が新鮮なこと、早朝の吉野は気持ちが良いものだ。

6年前に奥千本の桜を見たときの感動をと思って行った。しかし、今や昔の景色は無く、病気により伐採されハゲ山。西行さんも嘆くだろう。





日本屈指の桜「又兵衛桜」

後藤又兵衛にちなんで「又兵衛桜」。知名度は抜群、全国から見物にくるのもよく分かる程感動的に美しい。良く整備されて、桜と背景の桃花との取り合わせ、それに緑の草と菜の花の黄色。石塀の上に鎮座する老桜。地元では「本郷の瀧桜」とも呼ばれている。石垣の上から滝の様に水が流れている様にも見える。桜を目の前にして、素敵なランチ。緑の草に座って大桜と対面と贅沢な時間を過ごした。





佛隆寺千年桜(左) 大野寺紅しだれ(右)

宇陀市は吉野から北へ20kmの山村の市である。村には桜の巨木が満開の花を付けていて桜の田舎だ。寺には村を象徴するように樹齢数百年といわれる桜の銘木の数々に興味をそそられる。今回はその一部を鑑賞した
佛隆寺:千年桜の銘木。左上写真の上段の桜
大野寺:現在養成中。寺庭のしだれ桜の木々が美しい。

近畿圏では、最も遅い桜の地 宇陀。山間部の田舎情緒あふれる桜の村々。ひっそり恒久の歴史を持った桜木。今回、吉野山から足を伸ばして正解であった。





我が家の近くの奥須磨公園

桜の時期に朝夕の桜の中の公園散歩。咲き始めから散り初めまで花の移り変わりを楽しめた。

池の堤に植えられた桜の木は堤をまたがる様にせり出し、土手の緑やあじさいのフェンスと相性が良い。

朝日を浴びて輝く花、夕陽に幽玄な姿を見せる花などに魅せられた日々であった。